

「沖縄ゆいまーるプロジェクト」で地域活性

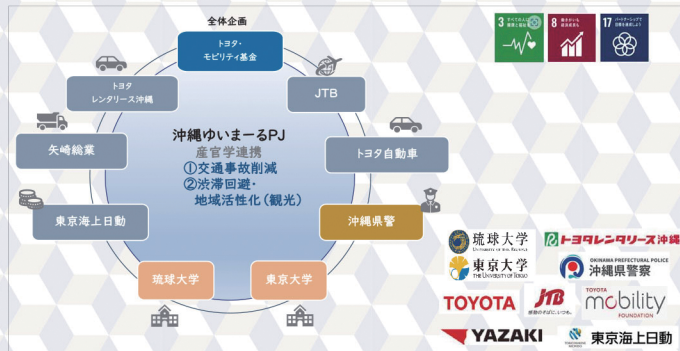
トヨタレンタリース沖縄

トヨタレンタリース沖縄（野原朝昌社長、沖縄県那覇市）は、2020年3月以降、「沖縄ゆいまーるプロジェクト」に着手し、産官学連携による交通事故削減と渋滞解消による地域活性化に尽力している。

沖縄県では、観光客が増えたことに伴いレンタカーの貸出件数も拡大。同時に交通事故も増加傾向にあった。特に日本の交通ルールに対する理解が不足しがちな外国人によ

る事故対策が課題だった。また、観光客が集中することで発生する交通渋滞を交通事故防止の観点からも解消する必要があった。

沖縄の方言で助け合いを意味する「ゆいまーる」をプロジェクト名に冠するこの取り組みは、現在同社とトヨタ・モビリティ基金、沖縄県警察本部、矢崎総業、JTB、トヨタ自動車、東京海上日動火災保険、琉球大学、東京大学大学院工学系研究科の9者が



交通事故削減については、安全運転行動に寄与する車内プッシュ型アプリの開発やドライブレコーダーを活用した映像解析、車両データによるインフラ対策に取り組んでいる。運転診断機能を搭載した車載タブレット「スマイルくん」とその発展形である「ゆいまるくん」をレンタカーに搭載し、観光を楽しむながら安全運転を行えるようにドライバーの安全運転意識向上に注力してきた。また、危険運転行動

産官学連携し事故防止と渋滞解消

につながるドライバーの映像データを基にした道路環境改善にも取り組んでいる。

一方で、人気観光スポットが多い県北部における渋滞解消にも取り組み、スマイルくんによる渋滞回避につながるルート案内や新たな立ち寄り先紹介、県南部エリアへの訪問促進を進めている。

これらの取り組みにより、交通事故件数と危険挙動の大幅削減に成功した。



【受賞者コメント】この度、沖縄県警察本部様などと産官学でデータ連携による交通事故削減や地域活性化を目指す取り組みを評価頂き受賞できましたことを心より感謝申し上げます。本活動を通じて、多様なメンバーの力を合わせて社会課題解決に取り組むこと、地域社会とのパートナーシップの重要性を再認識しました。今後も、県民や観光客が安全で快適に過ごせる環境づくりに努めるとともに、地域社会に貢献してまいります。